

今は、上智大学文学部新聞学科でメディアやジャーナリズムに関しての勉強をする傍ら、ウェブライターとして色々な人や企業に取材し、記事を書く活動もしています。私は高校2年生の時に北海道が主催しているカナダ・アルバータ州との交換留学プログラムに参加しました。「国際文化科にいるからには、高校生のうちに海外に行っておきたいなー」くらいの軽い気持ちで応募したこの交換留学が、まさか自分の進路を左右することになるとは思ってもいませんでした。

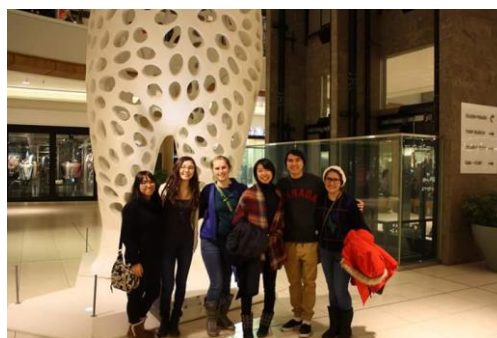
留学に行くまで日本はおろか北海道からも出たことがなかった私は、カナダで自分の非力さ、無知さに直面しました。私が高校生の頃は今のSDGsと似たニュアンスで「グローバル化」がキーワードでした。国際文化科に在籍しており、英語には自信がある。国際社会で活躍できるグローバル人材になるための授業も受けてきた。世界のことも知っている。と、自信満々で乗り込んだカナダ。移民の国で世界各国にルーツを持ち異なる文化の人



たちが当たり前のように共生していることも、LGBTQの人達が存在していることも、アジア人差別が存在していることも、全部知識として知っていたはずなのに、実際にカナダでそれらに直面した時は大きな衝撃を受け「自分は何も知らなかったんだ」と痛感しました。さらに韓国にルーツを持つ友人に「お母さんが日本人のことを嫌っているから家に招待できない」と言われたときは本当にショックを受けました。その子と私は友達になることができたのに、中国にルーツのあるホストファミリーと本当の家族のような関係を築けているのに、なぜこのような溝が生まれてしまうのか。これらの経験を通じて、私たちが普段情報を得る手段である「メディア」の存在の大きさについて考えるようになりました。

日常生活の中で自分の力だけで得られる情報はどれだけあるのでしょうか？私はほぼゼロだと思っています。ニュースで報道されている情報も、SNSで得られる情報も「発信している誰か」がいないと得ることはできません。今思うとシンプルなことですが「じゃあその発信する誰かの存在、そしてその誰かが何を発信するかってものすごく大事じゃん」と気がつきました。私がカナダに関する知識を持っていても「自分は何も知らなかった」と感じたことも、友人のお母さんが日本人のことを嫌っていたことも、情報との出会い方が違っていたら別の結果になっていたのかもしれない。留学を通じてこんなことを考えたことが、メディアやジャーナリズムといった情報を発信することに関して深く学ぶことのできる今の学科を志望するようになった最初のきっかけです。

留学を通じて学んだもう一つのことは、思い切って行動することの重要性です。実は高校時代の自分は部活動に熱中していたことや経済的な理由を背景に、在学中に留学することはほとんど諦めていました。そんな時に、英語担当の先生に「お前ならこの留学で確実に成長できる。実際に世界を見てきて色んなことを感じてこい」と言われ、思い切って応募したことで今の自分があります。例えば、どんなに富士山の頂上からの景色が見たい！と心で思っていたとしても、実際に山の麓まで行き、登り始めなければ、頂上からの景色は永遠に見ることはできません。登り始めて無理だと思ったら、いったん下山してまた準備をすればいいんです。登り始めないと「今の自分には無理だ」ということに気がつくこともできません。



とりあえず行動してみたら、そこから自分の世界が広がり動き出すということを知った結果、大学を休学してピースボートで世界一周を試みたり、大学でアラビア語を学んでみたり、ライターとして60人以上の人に取材を試みたりとアクティブな自分が生まれたと感じています。もし、在校生の方で何か悩んでいる方がいれば、ぜひ勇気を出して一歩目を踏み出してみたいです。

